

問題 I

図 1 から図 3 は、3 種類の立体の三面図である。各立体は一つのかたまりであり、すべての面は平面である。これらの立体を、頂点 a, b, c, d を通る平面で切断する。

解答欄 1 から解答欄 3 に示す三面図に、切断してできる断面を塗りつぶして示しなさい。

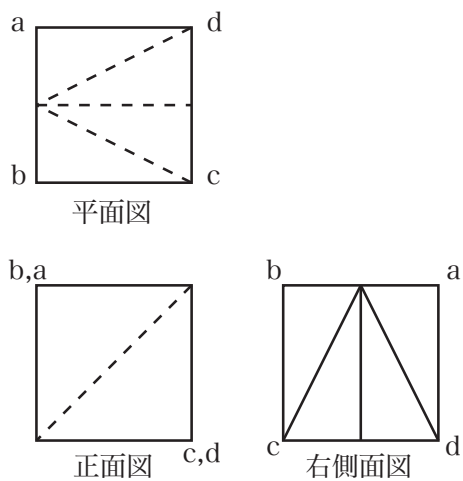


図 1

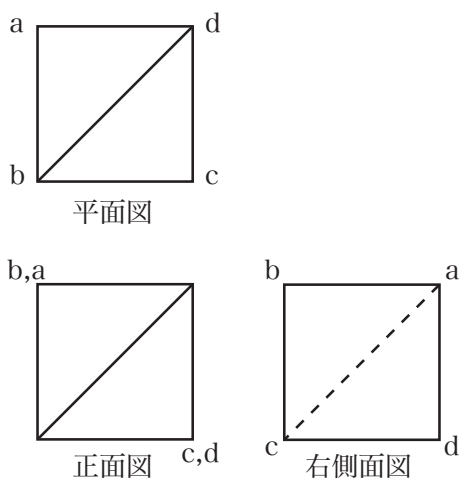


图 2

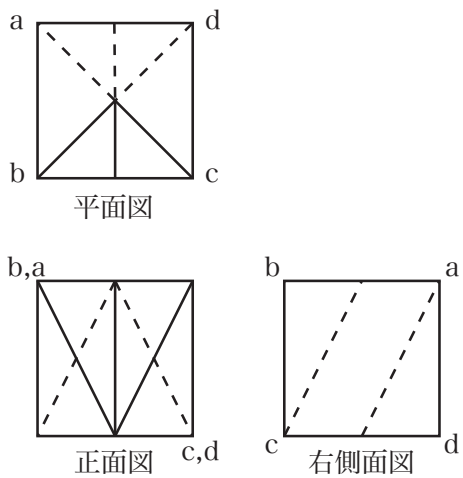


图 3

問題 II

図4に示す三角形 oab に対して, $[(0, 4, z) (90^\circ) \rightarrow (x, 4, 4) (-180^\circ)]$ という操作を加えると図5の立体ができあがる。

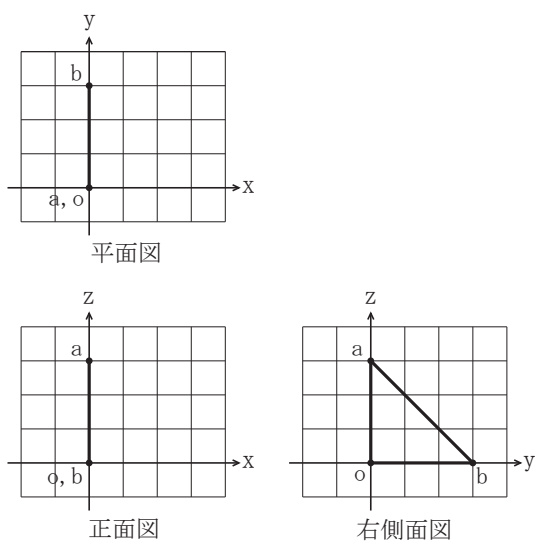


図 4

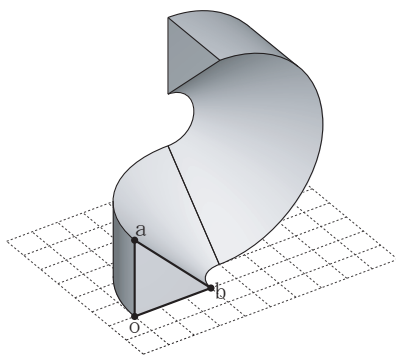


図 5

問 1

図 6 に示す立体の操作を，解答欄 4 に記しなさい。

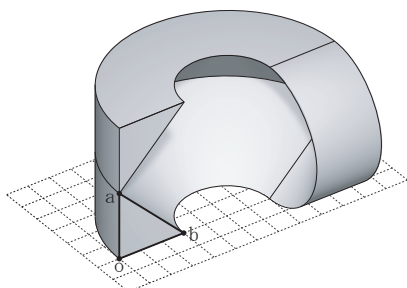


図 6

問 2

図 7 に示す立体の操作を，解答欄 5 に記しなさい。

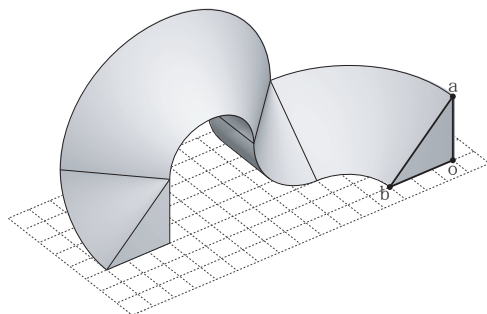


図 7

問題Ⅲ

次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

ただし、ここでいう「キャリア」とは、「家庭や学校、就職先、地域社会などにおいて、人が生涯にわたり、さまざまな立場や役割を果たし続けていくこと」を意味しています。

(1) キャリア教育の必要性

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても各方面から指摘されている。

このような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

(2) キャリア発達とは

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。

具体的には、過去、現在、将来の自分を考えて、社会の中で果たす役割や生き方を展望し、実現することがキャリア発達の過程である。D. E. スーパーは、この過程を生涯における役割の分化と統合の過程として示している。

自分の過去・現在・将来を見据え、社会との関係の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことは、自己の確立として青年期の発達課題とされてきたが、生涯に

わたったの課題ととらえるべきである。人は、生涯のそれぞれの時期において、社会との相互関係の中で自分らしく生きようとする。そして、各時期にふさわしい個別的なキャリア発達の課題を達成していくことが、生涯を通じてのキャリア発達となる。キャリア教育は、そのような一人一人のキャリア発達を支援するものでなければならない。

キャリア発達の中心は、社会の一員として自立的に自己の人生を方向付けることであるが、一人一人のキャリア発達は、知的・社会的発達とともに促進される。例えば、小学生は小学生にふさわしいものの見方や行動の仕方に基づいて、自己と社会をとらえ、自分を方向付けようとする。その意味で、キャリア発達の理解には、まず一人一人の能力や態度、資質は、段階を追って育成されるということを理解しておく必要がある。そのために、国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を開発し、児童生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「意思決定能力」、「将来設計能力」の「4つの能力」を、児童生徒の成長の各時期において身に付けることが期待される能力・態度などとして例示している。

出典：文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 ―児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために―」（文部科学省Webページより抜粋）

問

これらの内容を、講演会で話すことにします。その際、(1)、(2)の文章それぞれに対して、視覚資料を作成します。重要と考える部分を、図形や矢印、キーワードを用い、解答欄6と解答欄7に図として表現しなさい。

問題Ⅳ

二つの正方形をそれぞれ1本の曲線と2本の直線で分割し、分割した面を異なる色彩で着色して、左側の正方形に「柔」を、右側の正方形に「剛」を表現しなさい。解答は与えられた画用紙を用いること。

【条件】

1. 正方形の大きさは一辺 15cm とする
2. 分割に用いる曲線および直線の両端は正方形の辺に接している
3. 着色はムラがないようにする
4. 白の部分は白色の絵の具を用いる

問題Ⅴ

与えられたケント紙を加工して、自由に立体を構成しなさい。

【条件】

1. 構成する立体は一つとする
2. 立体は持ち運んでも簡単には壊れないものとする
3. 立体は板紙からはみ出さない大きさとする
4. ケント紙はすべて使わなくてもよい
5. 板紙はカッターマットとして使用する
6. 立体が完成したら、受験番号を記入したシールを貼る